

「イエスは神の子か」

マタイによる福音書 27章 39～44節

聖学院みどり幼稚園園長・聖学院事務総局長 山川 秀人

皆さんの中には大学で初めてキリスト教と出会い、接した方も多いでしょう。私自身も聖書を読み始めた頃は大学生でした。しかし、道徳的な戒めや教えはなんとか理解することはできましたが、理解不能だったのはイエスによって行われた数多くの奇跡、特に十字架の死と復活の出来事でした。元々宗教に懐疑的だった私にとって、奇跡という非科学的な出来事は関心外のことでした。ですが、人の一生の最大の出来事は誕生と死です。この問題は誰も避けることはできません。私達にとって死の問題は真面に向き合うことは避けつつ、しかし喉の奥に引っかかった小骨のように常に気にかかる存在ではないかと思います。

聖書にはイエスが十字架にかけられた時の人々の反応が記されています。刑場に引き出されたイエスは釘で手足を十字架に打ち付けられました。どんなに苦しかったかと思います。しかしそのようなイエスに向かって周りの人々は悪口を浴びせかけました。「もし神の子なら自分を救え。そして十字架から降りてこい」。「他人を救ったが自分自身を救うことができない。今十字架からおりてみよ。そうしたら信じよう」。とても酷い言葉です。しかし、私自身もキリスト者となる前、「もしイエスが目の前に現れたら信じる」とか、「イエスが本当に神の子なら悪い連中をやっつけてしまえば良いのに…」などと考えていました。神の子なら人間よりも大きな力をもっているはずだし殺されてしまうわけがない、という思いだったからです。皆さんはどう思うでしょうか。

その意味で、「神の子なら十字架から降りてみよ」とは、私達自身の心の言葉ではないでしょうか。実はイエスを十字架にかけたのは私達自身でもあるのです。それは単なる二千年前の出来事ではないのです。しかしイエスは十字架から降りては来ませんでした。やはり神の子ではなかったのでしょうか？もしイエスが本当の神の子、救い主、キリストだったとしたら、十字架から飛び降りて、人々を「あっ！」という間に救ってみせる奇跡の力を見せてくれたのでしょうか。

ところで、現在私たちにとって最も大きな関心は新型コロナウイルスです。大学生になっても大学に来られない日々が続きました。ワクチンも治療薬もないウイルスへの感染の恐怖にどれだけ多くの方々が苦しんでいることでしょうか。そして多くの人が「主(イエス)よ助けて下さい、早く私達を助けに来て下さい」と祈りました。しかし主は十字架から降りて来られなかったように、神の子の力も、私達を「あっ!」と言わせる力も、見せては下さいませんでした。やはりキリスト教は無力な宗教なのでしょうか。

そうではありません。主イエスの本当の力は、悪い人間を成敗したり奇跡を起こしたりすることではなく、心が弱くなっている人間、悲しみ苦しんでいるそんな私達のそばにいつも寄り添っていて下さることだからです。

以前、私は知りませんでした。苦しい時、一人で悩んでいる時、結局自分を救えるのは自分自身しかいない、と考えていました。しかし、そうではなかったことをある時に気づかされました。主イエスは、他人を、つまりこの世界の人間を、私達を救うため、十字架で「ご自分」が死なれたのです。だからどんなに罵られても悪口を言われても耐えて下さいました。「他人は救ったのに自分は救えない」と言われても、父なる神を信頼し続けたのです。

私も「本当に神の子なら十字架から降りて来られるはずだ」と思った一人でしたが、主イエスの私に対する、そして人間に対する本当の愛を知った時、感謝の気持ちが溢れイエスを主と信じることができるようになったのです。

神様、主イエスは神の子です。どんなことでもできないことはありません。十字架から降りることも簡単なことです。しかし、主イエスのご自分が十字架で死ぬことが神のみ心であることを知っておられました。そして私達は、この主イエスの十字架の苦しみによって、罪が許され、神様の子としていただきました。心から感謝致します。神様、どうかこのようなあなたの愛を、多くの人達が信じることができ、主イエスを救い主として受け入れることができますように。主イエスのみ名によって願い、祈ります。